上末っ子

令和６年１月９日

１月号

横浜市立上末吉小学校

～　学び合い　みとめ合い　一人ひとりが輝く上末っ子　～

https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/

学校ホームページ用 QR コードです。学校の様子をご覧いただけます。

応　援

校長　内田　宏平

新年の静謐な空気は、「何かにチャレンジしたい」という意識を呼び起こします。箱根駅伝をはじめとする様々なスポーツを目にする機会が多いこともその一因かもしれません。

私は、マラソンを趣味としています。毎年１２月には、かつての同僚たちと沖縄に集まり、那覇マラソンに参加するという１０年以上続く恒例行事があります。金曜日の夜に出発して土曜日は親睦を深め、日曜日に走ってから帰ってくる・・・という強行スケジュールに、家族は呆れ顔です。確かに、羽田空港から自宅に帰る道中は疲労と打ち上げの名残で足取りが怪しい状態ですが、心は温かさで満ち満ちています。

なぜ、那覇マラソンに惹かれるのか。趣味であることや同僚との再会などを差し引いたとしても参加したいと思わせる魅力が那覇マラソンの「応援」です。

コース上、途切れることなく沿道からかけられる「がんばれ！」の声。オフィシャルとか知り合いとか関係なく多くの市民の方々がテーブルを広げ、飲み物や氷を提供してくれるという懐の深さ。ラスト１kmは、ボランティアの高校生たちが両サイドから熱い声援を送ってくれ、さながら自分が映画の主人公になったかのような錯覚を覚えるほどです。

今年もランナーとして味わえる喜びを噛みしめながらスタートしました。国際通りに入る角を曲がった瞬間、沿道の応援の迫力がさらに増しました。そのとき、なぜか涙がこみ上げてきたのです。

年を取って涙もろくなっていることもあるかもしれませんが、沿道の方々が応援してくれている表情や声に感動してしまったのです。全てのランナーに等しく送られる応援の熱量。涙を流して走る怪しいおじさんランナーである私にも、たくさんたくさん届いてきました。

「応援する」「応援される」という行為から得られる共感性は、人間関係を構築する上で、とても大切なものであると考えます。学校教育活動の中でも、運動会をはじめ、「応援」が心身の成長につながるという実践が多々あります。

２０２４年。子どもたちが互いを応援し合える雰囲気や寛容性を大切にするとともに、子どもたち一人ひとりの思いを支えながら、しっかりと応援できる大人でありたい。そう心を定めた新年です。

さて、那覇マラソンで応援に感動して泣けてきた話を家族としていたところ、「そういえば、普段、応援されることってないよね」という話になりました。確かに。日々、頑張って生活しているものの、応援の声が聞こえてくることはないよねえ・・・と。大人として社会生活を営むのは当たり前のことではある。でも、ときには、互いを応援する心持ちで声をかけあうことで心が潤うんだろうなあ・・・。ということで、家族内でも応援の声を届け合うことを今年の目標に掲げました。

子どもたちがより一層安心して自分の力を発揮することができるよう、教職員と保護者の皆様、地域の皆様、子どもに関わる全ての大人が互いを応援し合い、共感性を高めていけるような関係を築いていけましたら幸いです。今年も本校教育活動へのご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。